

世界出生力調査の実施計画

1974年、世界人口年を契機として、国連の全面的なバックアップのもとに、I. S. I. (国際統計協会)が企画して、World Fertility Survey が実施されることになり、わが国もこの調査に参加し、かつ開発途上国の調査援助のための国際分担金も分担することがすでに決定していたが、とくにわが国の調査が、本年9月15日より、先進国としては最初に行なわれることになり、各国の注目を浴びている事情にかんがみ、調査の方法および内容の打合わせのため、3月24日～4月6日の間、I. S. I.の世界出生力調査実施本部の所在地であるロンドンにおいて会議が行なわれることとなり、この調査の実施機関の厚生省大臣官房統計情報部の森福省一人口動態統計課長と、協力機関の人口問題研究所の青木尚雄能力科長の両名が出席し、本部長のSir Maurice Kendal および同本部にミシガン大学から出向している Prof. Yuzuru Takeshita らと会談した。

なお、世界出生力調査は、アジア地域においてはわが国のほか、韓国、マレーシア、フィジーの諸国が調査実施予定で、わが国においては昭和49年厚生行政基礎調査の被調査区から再抽出された200単位区に居住する50歳未満の既婚女性約4,000を対象としてインタビュー方式で行なわれることになっており、人口問題研究所能力科中野英子技官、同政策科柴田弘捷技官らを含むプロジェクトチームが統計情報部内に編成され、調査票の設計および調査員のトレーニング方法を検討しはじめている。

調査結果は、国際的あるいは地域的比較を行なうため、I. S. I.の調査実施本部に提供されるとともに、それに併行して国内における出生力と家族計画実状を明らかにすることによってわが国の人口政策の参考にするため、統計情報部が集計分析することになっている。(青木尚雄記)

エカフェ主催「家族計画プログラム実施と推進のための調査と研究の役割に関する地域セミナー」

標記のセミナー (Regional Seminar on the Role of Surveys and Studies for Family Planning Programme Management and Development) は、エカフェ人口部主催の下に1974年1月28日から2月9日まで、バンコクにおいて開催され、出席者は、イラン、インド、バングラディシュ、パキスタン、フィリピン、インドネシア、韓国、シンガポール、日本のほか、国連専門機関の代表者であった。本研究所からも筆者(人口移動部の岡崎陽一移動科長)がこれに参加した。

家族計画プログラムを実施するに当って、administrators は調査と研究の結果を十分に活用していないさらいがあり、また調査研究者の側では、結果が実践的に活用され易いかたちで提示する努力に欠けている面がある。このギャップをどうしたら埋めることが出来るかというのがこのセミナーの主題であった。

(岡崎陽一記)

WHO主催「人口と開発に関する保健動向と展望に関する会議」

1974年2月11日～24日にかけて、ペルーのリマにおいてWHO主催の標記会議 (Meeting on Health Trends and Prospects in Relation to Population and Development) が開催され、日本からも本研究所人口資質部長篠崎信男技官が出席した。今回の会議の目的は「世界人口会議」に対して、WHOとしての